

## 地区意見交換会委員への意見照会結果

## 1 東青地区

意見なし

## 2 西北地区

項 目
1 全日制課程の学校規模・配置に関する意見
(1) 重点校・拠点校・地域校の配置等
① 重点校・拠点校
<p>○ 県教育委員会では選抜制の高い大学への進学と今後求められる人財の育成に向けた中核的役割を担う高校を重点校としている。しかし、西北地区の現状では、選抜性の高い大学への進学を目指す生徒は隣接地区の重点校を目指す傾向にある。実際に多くの生徒が隣接地区の重点校に進学している状況でもある。よって、6地区全てに重点校の配置が必要なのか再検討すべきである。</p> <p>また、6地区に重点校を置くのであれば、他地区から進学を希望する生徒に対してある程度の縛りをかけていかなければならないのではないかな。</p> <p>県教育委員会では、もっと柔軟な考え方に基づいた重点校の基準を設定すべきではないのか。今後、急速な人口減少が想定される本県において、本県を支える人財を育成している高校も重点校として指定されても良いのではないかな。</p> <p>この高校教育改革を進めなければならなくなった大きな要因としては急速な生徒数の減少があるが、元を正せば本県の急速な若年者人口の減少から起きたものではないのか。根本的な課題をよく吟味して、本県にとって必要な高校教育改革を進めなければ、本県の存続にも影響してくるのではないかと危惧している。重点校の基準見直しについては、県教育委員会に強くお願いしたい。</p> <p>○ 五所川原高校は大学進学はもとより、今までも多くの逸材を各界に輩出している高校であり、西北地区の重点校としての役割を十分に果たしている。在籍するほとんどの生徒は進学を志していることから、校内では教育課程を工夫し、講習、小論文指導、校外模試など、学力向上のための指導が徹底されている。中学生の進路志望状況調査を見れば定員割れが気になるところだが、重点校としては、名実ともに実績のある五所川原高校がふさわしい。また、難関大学への進学等を考えれば、少人数による指導等も工夫できる。</p>
② 地域校
(追加意見なし)

<b>(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション</b>
<b>ア 全ての学校を配置する場合</b>
<b>【期待される効果等】</b>
(追加意見なし)
<b>【更に検討を要する課題等】</b>
○ 地区における重点校指定の見直しが必要と考える。五所川原高校理数科と五所川原工科高校普通科2学級は必要なのだろうか。生徒数が大幅に減少する中、甚だ疑問である。
<b>【その他（学級減の方法等）】</b>
○ 西北地区では、県教育委員会が学校規模の標準として示している1学年4学級以上の高校が令和3年度以降では4校のみとなる。4校それぞれの1学年の学級数は、五所川原高校、五所川原工科高校は5学級、五所川原農林高校、木造高校は4学級である。2学級減を行う場合には、学校規模の標準を満たす高校が4校しかない現状から見て、5学級ある高校から減らすべきであることは当然ではないか。 学校規模の標準を満たす高校をこれ以上減らすことは、子どもたちの向学心の高揚に逆行し、また、地域住民の感情を逆撫ですることになりかねない。
<b>(3) その他</b>
(追加意見なし)
<b>2 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見</b>
○ 定時制課程や通信制課程を有する高校は、不登校などの諸事情を抱えている生徒の進学先として、十分な役割を果たしている。募集定員には満たないとしても、その存在意義は大きいものである。県立高校では五所川原高校に定時制課程が、私立高校では五所川原第一高校に通信制課程が設置されているが、今後可能な範囲で両校が交流をしながら、より効果的な指導が展開されることを期待したい。
<b>3 多様な教育制度に関する意見</b>
○ 全国からの生徒募集に反対するつもりはないし、様々なアイデアも出されるとは思うが、実際にどれだけの生徒が全国から集まるものか、どれだけの成果が生まれるのか、想像がつかない。また、導入に向けた関係者のエネルギーや財政支出等を考えれば、学級編制基準の見直しや少人数指導、習熟度別指導等を行うなど、現実的な視点から工夫してみてもどうかと考える。
<b>4 その他（地区意見交換会全体を通じた意見等）</b>
○ 第3回地区意見交換会（西北地区）において、高校の校長から一言ずつ現場の思いを述べてもらいたい。教育長等の委員からの意見も大切であるが、高校現場の声を知らずに議論を進めるのは、少し危うい気がする。
○ 志望倍率だけを見て、単純に募集学級数を減らすことはいかかなものかと考える。県教育委員会が重点校・拠点校・地域校を配置するのは、成し遂げたい「ねらい」があるはずである。志望者減に伴う学級減は避けて通れない論点ではあるが、西北地区を一つのまとまりとして捉え、均衡のとれた視点に立って学校配置を検討したい。それぞれの地域や学校への思いが先行し過ぎないように、お互いに配慮したい。

### 3 中南地区

項 目
1 全日制課程の学校規模・配置に関する意見
(1) 重点校・拠点校・地域校の配置等
① 重点校・拠点校
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 重点校が大学進学を目指すことを目的とした普通科の高校であることを明確化し、生徒が第1希望の大学に合格できる学力を身に付けられる環境づくりをしていく必要がある。</li> <li>○ 弘前工業高校を拠点校とした場合、工業高校としての専門性を求めたい。例えば、高校在学中に資格試験に合格できるような指導を行い、実社会に出て即戦力となる人財に育てることを全面に打ち出すことも必要である。また、大学進学を志望する生徒に対しては、進学後も専門性を生かすことができるよう技術と能力を育成してほしい。 さらに、弘前駅からの通学距離や通学時間から見ても、弘前工業高校を拠点校とすることは妥当である。他の高校を拠点校とする場合、通学条件を考慮すると課題も多い。</li> <li>○ 農業の拠点校として柏木農業高校を配置してほしい。このままでは定員割れとなり、廃校になりかねない。</li> <li>○ 配置する意味がなくなってしまうため、重点校及び拠点校には特に力を入れてほしい。</li> </ul>
(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション
ア 全ての学校を配置する場合
【期待される効果等】
○ 高校進学の際、生徒の選択肢が確保される。
【更に検討を要する課題等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 10年後までに6学級減を行うということは、高校1校分がなくなるのと同じことであり、今までどおり全ての学校を配置するためには、県がそれだけの財政負担をするということになる。これが健全な財政使途であるかは疑問であり、高校全体に期待できるような効果はほとんどない。</li> <li>○ 現時点での高校教育改革推進計画が遅いくらいであり、定員割れが生じることは以前から察知していたはずである。生徒数の減少傾向を踏まえた思い切った決断が必要である。</li> <li>○ 今までどおり全ての学校を配置すると、倍率の低下や競争意欲・学習意欲の鈍化が懸念される。10年後の高校生にとっての適切な学習環境のため、最良の判断が求められるのではないか。</li> <li>○ 弘前市に高校が集中することで、弘前市以外の高校へ進学する生徒が減る。</li> </ul>

<b>イ 中南地区の拠点校を弘前工業高校、柏木農業高校として配置する場合</b>
<b>【期待される効果等】</b>
○ 第1次産業としての農業の役割は大きく、農業の在り方も変化してきている状況であり、これに対応した高校教育が求められる。農業の活性化にもつながることからも農業高校の役割は大きく、中南地区の拠点校として、柏木農業高校の存在は将来的にも十分期待できる。
<b>【更に検討を要する課題等】</b>
(追加意見なし)
<b>【その他】</b>
(追加意見なし)
<b>ウ 第2期実施計画で弘前南高校を3年間校舎化した上で募集停止する場合</b>
<b>【期待される効果等】</b>
○ 中南地区の重点校を弘前高校と弘前中央高校の2校とすることで、更に競争意欲が高まり、他の県立高校・私立高校にも学力向上などの波及効果が出るのが期待される。
○ 普通科の高校を減らすことで、黒石高校や、西北地区の五所川原高校を目指す生徒が増えるのではないかと。
<b>【更に検討を要する課題等】</b>
○ 弘前市内の普通科の県立高校は、3校よりも2校になった方が競争意欲は高まると想定される。競争率の低下を防ぐことが最も重要な要因であり、大学進学率の向上のためにも10年後の生徒数の状況に合わせた計画が必要である。
<b>【その他】</b>
○ 弘前南高校について、第2期実施計画期間内に2学級を減らし、第3期実施計画期間中に残りの4学級減を行い募集停止するという方法も考えられる。
○ 志願倍率を考慮すると、弘前南高校の募集停止はやむを得ないのではないかと。
<b>エ 第2期実施計画で学級減を行わない場合</b>
<b>【期待される効果等】</b>
○ 学級減を行わないということは現状を把握していないということであり、高校生にとってのメリットを期待することはできない。
○ 高校数が維持されることで生徒や親の選択肢が増え、負担が減る可能性がある。学力低下が懸念されているが、少人数学級編制を導入すればむしろ学力が上がる。
<b>【更に検討を要する課題等】</b>
○ このシミュレーションについて、更に検討する必要性が感じられない。
○ 第3期実施計画期間の5年間に6学級減は現実的ではない。3学級減の誤りではないのか。
○ 1学級を20人程度にし、講師等を雇いながら手厚い授業を行うことができれば、学力の低下は生じない。私立高校は多様性、公立高校は学力向上への特化などそれぞれ特色を棲み分けすることができれば、学級減を行わなかったとしても、公立高校と私立高校との共存は可能である。

<p><b>(3) その他</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒数が減少することは確実であるため、学級減は必要である。</li> <li>○ 青森県としてどの程度教育に力を入れたいのかが分からない。教育を重視するのであれば、損得など考えずに教育への投資を進めてほしい。</li> </ul>
<p><b>2 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定時制課程及び通信制課程の高校に通うことに不便を感じるという意見に対しては、やはり何らかの手段を講じる必要がある。</li> </ul>
<p><b>3 多様な教育制度に関する意見</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国からの生徒募集の導入にあたっては、小中高一貫教育を行う学校や、日常的に英語を使用する高校等の他都道府県にはないようなユニークで特徴ある高校をつくるべきである。そうすることで、自主性のある生徒が育つことが期待される。</li> <li>○ 作物の育成を通して人間教育を行うなど、農業高校への全国からの生徒募集の導入が考えられる。また、他県から来た生徒がその地に定着するよう努めるべきである。</li> <li>○ 全国からの生徒募集の導入に伴い、地元の協力による下宿等の整備など生活環境の問題がある。</li> </ul>
<p><b>4 その他（地区意見交換会全体を通じた意見等）</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目先のことでなく、10年後の高校生にとってより良い学習環境を整えるにはどうすれば良いかを重視し、実践的な計画に取り組むべきである。</li> <li>○ 高校教育改革と謳っていながら、学級減や学校統廃合ありきで進められているように感じる。中南地区の最大の課題である「倍率が他の地区と比べ極端に高い」ことに対する県の方針を明確に示してほしい。</li> <li>○ 県立高校においても、推薦入学を復活させてほしい。</li> </ul>

## 4 上北地区

項 目
<b>1 全日制課程の学校規模・配置に関する意見</b>
<b>(1) 重点校・拠点校・地域校の配置等</b>
<b>① 重点校・拠点校</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 重点校は、地区の代表校として、生徒及び教員対象の様々な研修等を企画・運営する立場にある。5年ごとに重点校の指定を変えるという意見もあったが、これにより、培ってきたノウハウの伝承に支障を来すのではないかと危惧する。重点校の取組が始まって間もないため、時期尚早と考える。</li> <li>○ 重点校の三本木高校は百石地区からは遠すぎる。</li> <li>○ 重点校・拠点校という枠組みは必要がない。全ての高校で教員は生徒を成長させるために頑張っているため、重点校の指定は不要と考える。</li> <li>○ 重点校を配置する目的について県民への説明は充分なのか。</li> <li>○ 重点校、拠点校という名称は、それぞれ普通科、専門学科における県全体から見た役割を意味するものであるとは理解しているが、指定校でない高校から見ると、優劣をつけられたように感じ、いずれ統廃合の対象になるのではないかと不安を抱かせるものである。このため名称の変更をお願いしたい。</li> </ul>
<b>② 地域校</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域校という枠組みは必要がない。</li> <li>○ 六ヶ所高校を2学級規模で維持するのは無理と考えられる。1学級規模で存続させたい。</li> </ul>
<b>(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション</b>
<b>ア 全ての学校を配置する場合</b>
<b>【期待される効果等】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「青森県教育施策の方針」や「青森県教育委員会の施策の柱」にある「郷土の誇り」「地域社会との連携」などの趣旨に合うものとする。</li> <li>○ 公共交通機関や経済的な理由で遠くの高校に通えない子どもを救うことにつながるなど、一人一人を大事にすることになる。</li> <li>○ 高校の存続により、それぞれの地域と高校との連携を進めることができる。</li> <li>○ 人口減少が続く青森県全体を考えると、町村部の活性化が最も必要であり、高校消滅による地域への影響は計り知れず、青森県全体の魅力低下にもつながる。</li> </ul>
<b>【更に検討を要する課題等】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第3期実施計画では、さらに2学級減が必要になることも念頭に置きながら検討する必要があるのではないか。</li> <li>○ 各高校の存続をお願いしたいので、学級数の多いところから学級減すべきである。閉校の可能性が高くなる連携校の学級減は避けるべきである。</li> </ul>

<b>【その他（学級減の方法等）】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 仮に百石高校が学級減になった場合、この地域の受検生は七戸・野辺地方面ではなく、八戸方面へ向き、上北地区の他の高校の志望倍率や定員充足率の向上は難しい。</li> <li>○ 令和2年度の中学校全学年の生徒数は、十和田市が約1,300人、三沢・おいらせ地域が約1,770人であり、十和田市に普通科8学級、三沢・おいらせ地域に普通科7学級では、バランスがとれないため、2学級減は十和田市とその周辺の高校からにしてほしい。志望倍率等を考慮した場合、野辺地・七戸地域から1学級減（野辺地高校または七戸高校）、十和田市から1学級減（三本木高校または三本木農業恵拓高校普通科）が妥当と考える。</li> <li>○ 令和3年度に開校する三本木農業恵拓高校は、六戸高校、十和田西高校、三本木農業高校それぞれが閉校という大きな痛みのもとに統合が決定した高校である。第1期実施計画のもと専門学科と普通科を併設し、これから新たにスタートしようとしているところであり、第2期実施計画において学級減の対象とすべきではない。</li> </ul>
<b>イ 普通科と専門学科を選択的に学べる総合的な高校を配置する場合</b>
<b>【期待される効果等】</b>
(追加意見なし)
<b>【更に検討を要する課題等】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第3期実施計画では、さらに2学級減が必要になることも念頭に置きながら検討する必要があるのではないか。</li> <li>○ 入学後、生徒自身の意思で学科を選択できれば、その学科が合わない場合の課題解消も期待できるが、年度によって選択学科の人数に大幅な変動があると学校運営上対応が難しい。</li> <li>○ 学校規模が大きければ、運動部等の選択肢が広がる利点が考えられるが、部活動は段階的な地域移行などの動きが見られる。また、部活動を進学の目的としない生徒も多い。</li> </ul>
<b>【その他（新設校の学科構成、設置場所等）】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上北地区は広く、公共交通機関に難があるので、どこに設置しても遠隔地にとっては利点が少ない。</li> </ul>
<b>ウ 上北地区の重点校を三本木高校、三沢高校として配置する場合</b>
<b>【期待される効果等】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上北地区に重点校を複数校配置する、あるいは、一定期間で重点校の指定を変えることにより、地区全体の活性化が図られる。</li> <li>○ 出生数等から見ても、三沢市内の児童生徒数が今後10数年は微減であるが大きく減少することはない。また、上北地区は青い森鉄道と国道4号線が主な交通（通学）ラインとなっており、そのラインに沿った市町村に居住する児童生徒数等の推移を考慮することも大切である。青い森鉄道沿線に居住する生徒が上北地区の重点校に進学したい場合、交通の便が良い三沢高校も重点校として教育環境を整えることにより、通学に係る保護者等の負担を軽減できる。</li> </ul>

<b>【更に検討を要する課題等】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 重点校を複数配置しても期待される効果には疑問がある。高校の魅力づくりやその情報発信は、重点校に限らずどの高校でも可能である。</li> <li>○ 上北地区において、重点校を複数校配置し、または5年ごとに重点校の指定を変え、競争を煽るというのは、本来の目的から外れている。重点校指定を看板に掲げなくても、三本木高校と三沢高校どちらも中学生から選ばれる高校になるために独自性のある教育活動を更に推進してほしい。高いレベルの教育内容と進学指導の充実を図っていけば、生徒は自分の進路目標が叶えられると考え、他管進学校を志望せず地元の両校を選択するであろう。</li> <li>○ 基本方針に掲げる「選抜性の高い大学への進学に対応した取組や先進的な取組等において中核的役割を担う高校」である重点校としては、上北地区においてはこれまでの進学実績から三本木高校がふさわしい。</li> </ul>
<b>【その他】</b>
(追加意見なし)
<b>(3) その他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学校3年生における進路選択の状況をもう少し精査した上で、何が大事なのかを考えて高校再編を検討する必要がある。</li> <li>○ 高校再編後を見据えたシミュレーションをしっかりと行い、学級減等を実施した後の生徒の動きを見定める必要がある。</li> <li>○ 経済的に近くの高校しか選択できない中学生もいるが、後期中等教育をどのように保障していくのが大事ではないか。一人一人を大事にする観点で考えていただきたい。</li> <li>○ 具体的な数値を基に議論を進めてもらいたい。</li> </ul>
<b>2 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な課題を抱えている子どもが、三沢高校定時制課程に入学し、ゆっくりと自分の進むべき道を見つけ、自立しつつあるという話を保護者等から聞くことが度々ある。このため、第2期実施計画においても三沢高校定時制課程が継続できることを強くお願いしたい。</li> </ul>
<b>3 多様な教育制度に関する意見</b>
(追加意見なし)
<b>4 その他（地区意見交換会全体を通じた意見等）</b>
(追加意見なし)

## 5 下北地区

項 目
<b>1 全日制課程の学校規模・配置に関する意見</b>
<b>(1) 重点校・拠点校・地域校の配置等</b>
<b>① 重点校・拠点校</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 田名部高校については、直近の第一次進路志望倍率が1.16倍であり進学校として人気も高く、重点校の役割を果たしている。</li> <li>○ 重点校については、第1期実施計画どおりの配置が望ましい。</li> <li>○ 下北地区においては、拠点校が配置されていないものの、むつ工業高校の配置は必要不可欠と考える。</li> </ul>
<b>② 地域校</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大間高校については、生徒の通学を考慮し地域校としての存続を希望するが、そのためにも早急に地域の関係者とともに、危機感を持って諸問題に取り組む必要がある。</li> <li>○ 地域校については、大間高校を継続して配置してほしい。ただし、今後見込まれる中学校卒業生数の減少を考慮すると、現在の2学級規模から1学級規模となることも想定される。</li> </ul>
<b>(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション</b>
<b>ア 全ての学校を配置する場合</b>
<b>【期待される効果等】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ むつ市内に3校とバランスの取れた学校配置となっており、子どもたちが自身の将来を見据えながら、特色ある高校の中から進学先を選択することができる。</li> <li>○ 全ての高校の配置が継続されるため、各高校が持つ特色や伝統・文化が継承される。</li> </ul>
<b>【更に検討を要する課題等】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級減となることで教員数の確保が難しくなるとともに、一定の規模を維持できている高校にのみ入学希望者が集中することが想定される。</li> <li>○ 学級減となることで教員数も減少するため、各高校の教育活動等への支障が懸念される。</li> </ul>
<b>【その他（学級減の方法等）】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 直近の第一次進路志望倍率を考慮すると、大湊高校とむつ工業高校を学級減することが想定される。</li> </ul>

<b>イ 大湊高校とむつ工業高校を統合して新設校を配置する場合</b>
<b>【期待される効果等】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 下北地区においては、統合は避けて通れない。統合により5学級規模となることで、教員数の確保、必要な教科・科目の維持、部活動の活性化等が見込まれ、子どもたちのニーズに応えられる。</li> <li>○ 校舎を新築し最新の設備を整備するなど、生徒が入学したい高校と思える教育環境を整えることができれば、高校の活性化が期待できる。</li> </ul>
<b>【更に検討を要する課題等】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通学路線や下宿先の確保が課題である。</li> <li>○ 統合に伴い魅力化を図るため、弘前実業高校の総合選択制のように、総合学科の生徒が工業系の資格取得を目指したり、工業科の生徒が総合学科で取得可能な資格取得を目指すためのシステムを構築したりすることが考えられる。</li> </ul>
<b>【その他（新設校の学科構成、設置場所等）】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学科構成については、総合学科3学級、工業科2学級の1学年5学級が考えられる。</li> <li>○ 統合校の設置場所として、むつ市中心部であるむつ工業高校の敷地も想定されるが、下宿先の存在、野球部やヨット部の設備等を考慮すれば大湊高校の敷地が適当と考える。</li> <li>○ 統合校の学科構成や設置場所等について、今後の検討になるのであれば、第3期実施計画以降に統合することが望ましい。</li> <li>○ 統合校の設置場所については、下北地区の生徒が通学しやすい場所が望ましい。</li> </ul>
<b>ウ 第3期実施計画において、むつ市内の3校を統合して新設校を配置する場合</b>
<b>【期待される効果等】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 田名部高校が重点校としての役割を果たすという視点から、将来的にはむつ市内3校の統合も視野に入れる必要があり、チーム下北として文武両道の高校となる可能性を秘めている。</li> <li>○ 生徒数や教員数を確保できるため、より質の高い教育を提供できる。</li> </ul>
<b>【更に検討を要する課題等】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第2期実施計画期間において学級減となる高校の質の確保が課題となるため、第2期実施計画期間は現状維持するか、少人数学級編制を導入することが考えられる。</li> </ul>
<b>【その他（新設校の学科構成、設置場所等）】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学科構成については、普通科4学級、総合学科3学級、工業科2学級の1学年9学級が考えられる。</li> </ul>

### (3) その他

- むつ工業高校としては2学級規模となっても実績を上げられるとのことであり、これを踏まえると、田名部高校と大湊高校の統合も可能性がある。

#### [効果]

- ・ 統合により7～8学級となることで、十分な教員が確保されることにより、難関大学の二次試験に向けて専門的な指導が期待できる。また、各部活動が部員数の増加により活性化し、むつ市の悲願である硬式野球部「むつ市から甲子園」の実現も期待できる。
- ・ 田名部高校と大湊高校は、両校とも単位制が導入されているので、統合校の円滑な学校運営が期待できる。
- ・ 大学進学を希望する総合学科の生徒については、田名部高校が有する重点校及び進学校としてのノウハウを共有できるため、学力向上につながる可能性がある。

#### [課題]

- ・ 県内で最大規模の高校となるため、統合校の設置場所等が課題となる。
- ・ 通学路線や下宿先の確保が課題である。

### 2 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

- 第1期実施計画の配置を継続してもらいたい。

### 3 多様な教育制度に関する意見

- 下宿や寮の状況、地域性、少子化等を考慮すると、現状では他県の生徒の入学は見込めない。一方で、全寮制とした上で高速通信回線を整備しICT教育を進めることによる可能性は否定できない。また、eスポーツに関する学科や部活動を設置するなど、現代にマッチした校風とすることも考えられる。
- 他県の生徒は親元を離れて高校進学することになるため、寮や下宿の整備など他県の生徒が衣食住で不便しない環境を整えることが必要である。

### 4 その他（地区意見交換会全体を通じた意見等）

- 高等学校教育に関する意識調査における「高校を選ぶ際に重視すること」によれば、高校の校風やイメージよりも、進学のための有利さ、部活動の状況等が重視されているが、下北地区の中学生に対し、魅力ある校風に関するアンケートを実施することも考えられるのではないか。

## 6 三八地区

項 目
<b>1 全日制課程の学校規模・配置に関する意見</b>
<b>(1) 重点校・拠点校・地域校の配置等</b>
<b>① 重点校・拠点校</b>
○ 重点校及び拠点校の役割や成果について、中学生やその保護者に対する更なる広報活動を期待する。
<b>② 地域校</b>
○ 生徒や保護者にとって通学に係る時間的・金銭的負担が大きくなり過ぎないように、地域校を配置する、もしくは遠距離通学をせざるを得ない場合の学生寮の整備や交通費補助等の支援が必要と考える。
○ 入学者数の減少によって募集停止することにならないよう、地域校となる高校による選ばれる魅力づくりへの努力と、県による支援が必要である。
<b>(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション</b>
<b>ア 全ての学校を配置する場合</b>
<b>【期待される効果等】</b>
(追加意見なし)
<b>【更に検討を要する課題等】</b>
(追加意見なし)
<b>【その他(学級減の方法等)】</b>
○ 八戸水産高校、八戸商業高校、名久井農業高校は、地域の基幹産業を学ぶことができる高校であり、第1期実施計画において1学級減となったばかりでもあるため、現状の学級数の維持をお願いしたい。
○ 名久井農業高校は、世界に認められる研究成果を挙げていることもあるため、現状の学級数の維持を強くお願いしたい。
<b>イ 三戸高校と名久井農業高校を統合して新設校を配置する場合</b>
<b>【期待される効果等】</b>
(追加意見なし)
<b>【更に検討を要する課題等】</b>
(追加意見なし)
<b>【その他(新設校の学科構成・設置場所等)】</b>
○ 校舎制とし、現存の各校舎を活用することが考えられる。
○ 富山県の統合事例(第2回地区意見交換会における参考資料)のように、統合校に総合選択制を導入することが考えられる。
<b>(3) その他</b>
(追加意見なし)

<b>2 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見</b>
(追加意見なし)
<b>3 多様な教育制度に関する意見</b>
(追加意見なし)
<b>4 その他（地区意見交換会全体を通じた意見等）</b>
(追加意見なし)